

# 魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年8月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、8月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564



<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>




## 目次



目次	1
8月のトピックス5選	3
いちご栽培環境モニタリングデータ活用講習会を開催	3
甘長とうがらし栽培の高温対策技術実証がスタート	3
中予地域の若手女性農業者交流会を初めて開催	4
販促イベント「つるむらさきフェス」開催	4
県内初！くりのドローン防除を実証	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
さといも疫病対策に新たな連絡体制を構築	6
さといも省力栽培実演会を開催	6
農福連携農作業受注システム試験運用へ	7
新規就農者・就農予定者が土づくり等を学ぶ	7
青年農業者協議会員が農業技術経営を学ぶ	8
令和5年度第5回就農初期農業者研修会を開催	8
地産地消・食育推進連携会議を開催	9
地場産品を活用した給食メニュー等のレシピ動画撮影	9
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	10
新規就農者夫婦が家族経営協定締結で共同経営をスタート	10
学校給食米の稲刈り体験及び食育クイズを通じた地産地消の推進	10
■東予地方局 産地戦略推進室	11
JA周桑と普及ビジョン推進連携会議を開催	11
秋作メロンの安定生産技術の実証を開始	11
■今治支局 地域農業育成室	12
さといも低コスト肥料の栽培実証	12
高温期におけるさといも栽培管理を指導	12
菊間地区「紅プリンセス」栽培講習会	13
就農予定者を対象に経営開始・準備研修会を開催	13
青年農業者を対象に「やさいバス」の研修会を開催	14
集落営農組織向けの労務管理講習会を開催	14
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	15
第8回上浦地区早期復興ワーキングチームを開催	15
■今治支局 産地戦略推進室	15
「しまなみ食材フェア」の開催に向け協議	15
イタリア野菜類の産地化に向けたマイナー品目の栽培実証スタート	16
■中予地方局 地域農業育成室	16

連絡会議において基盤整備地での地力増進について報告	16
さといもにおけるドローン防除実演会の開催	17
「中島トライアスロン」で農業女子がかんきつジュースの試飲会を実施	17
一次産業従事者が農林漁業の魅力を発信！～えひめ農林水産アンバサダー及びレポーター委嘱式～	18
農業労働力確保対策研修会を開催	18
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	19
野菜栽培の担い手確保・育成に向け勉強会を開催	19
肥料高騰対策として樹園地の土壌分析・診断を強化	19
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	20
クラウドセンシングを活用した雨よけトマトの栽培管理	20
有機質資材の利用によるピーマンの肥料コスト低減に取り組む	20
シンテツポウユリ彼岸時期の安定出荷に向けて	21
特別栽培米「三間米」の高品質生産を支援	21
■南予地方局 地域農業育成室	22
新規就農希望者の受入体制構築に向けて親方農家を訪問	22
女性農業者のスキルアップを目指した研修会を開催	22
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	23
鬼北地域における「紅まどんな」栽培を若手農業者に紹介	23
キウイフルーツ花粉生産の低コスト施設を検討	23
儲かる農業愛南地区交流セミナーを開催	24
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	24
飼料用米の規模拡大に向けて省力化技術の導入を検討	24
「南予の媛小春」魅力アップ協議会設立	25
■八幡浜支局 地域農業育成室	25
経営安定に向け重点指導対象者を訪問指導	25
女性起業農業者の経営力向上に向けて	26
ニホンジカ被害に備え関係機関と意識統一	26
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	27
研修生等がいちご IPM 技術を習得	27
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	27
高校生が水稻栽培への理解を深める	27
耕畜連携に向けた連絡会議を開催	28
■農産園芸課 高度普及推進グループ	28
水稻採種ほ場の事前審査	28


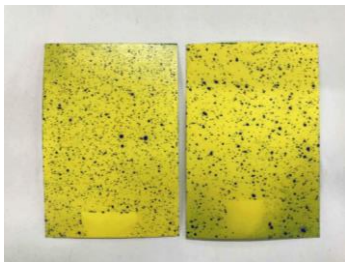
## 8月のトピックス5選

標 題	いちご栽培環境モニタリングデータ活用講習会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年8月22日	場所	西条市丹原町池田	
指導対象	東予東部管内 若手いちご農家（12人）	連携 機関	県農林水産研究所、農産園芸課、 JA えひめ未来、JA 周桑、メーカー4社	
普及指導 内容	<p>○栽培環境モニタリング機器から得られたデータを活用し、光合成に適したハウス内環境を精密に保つことで、単収向上を図る栽培管理技術講習会を開催した。</p> <p>○当室は、栽培環境モニタリングデータの活用方法を説明し、県農林水産研究所、農産園芸課からは県内外の取組事例紹介、各メーカーからは機種の特徴を紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○アンケート結果によると、全ての農家が講習内容に満足しており、栽培環境モニタリング機器未導入の農家のうち4割以上がすぐに導入したいと回答し、関心の高さがうかがえた。</p> <p>○「データ活用は難しいという印象があったが、説明が分かりやすく、思いのほかよく理解できた」との意見が聞かれた。</p> <p>○9月以降プロジェクトチームを立ち上げ、モニタリングデータ活用による単収向上効果等を検証するために4戸で実証試験を実施する。</p>			
 <p style="text-align: center;">機器の展示状況</p>		 <p style="text-align: center;">栽培環境モニタリングデータ活用の講習</p>		<p><b>【栽培環境モニタリング機器】</b> ハウス内外の環境（温度、湿度、CO<sub>2</sub>濃度、飽差、日射量等）を測定する機器で、自動的にデータがクラウドに送信・蓄積され、いつでもどこでもスマホでデータを確認することができる。</p>

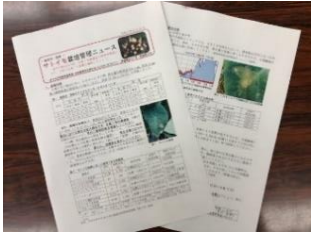
標 題	甘長とうがらし栽培の高温対策技術実証がスタート		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年8月1日、10日	場所	今治市玉川町	
指導対象	甘長とうがらし生産者（2人）	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	<p>○「普及組織先導型革新的技術実証事業」で養液栽培に取り組んでいる農家では、1日より細霧冷房システム等を利用した真夏に定植する新作型の実証を開始した。</p> <p>○また、高温障害果対策として、10日に被覆資材（青パオパオ）の実証ハウスを設置し調査を開始。青パオパオは通常のパオパオに比べて近赤外線と紫外線を遮光するため、ハウス内温度の低下や尻腐れ果の発生抑制効果等が期待できる。</p>			
結果と今後	<p>○養液栽培の実証では、傾斜地を利用した換気効率の高い新型ハウスや装備している細霧冷房システムにより、定植後の生育は良好で8月下旬から収穫が始まった。</p> <p>○青パオパオの被覆実証では、ハウス内の紫外線量が20%以上減少しハウス内温度も2度程度下がったものの積算照度が約30%低下したことから、障害果の発生率に加え光合成や草丈の徒長等の影響についても調査する。</p>			
 <p style="text-align: center;">真夏に定植された養液栽培ハウス</p>		 <p style="text-align: center;">ダンポールでパオパオを設置</p>		 <p style="text-align: center;">青パオパオの設置ハウス</p>



標 題	中予地域の若手女性農業者交流会を初めて開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月4日	場所	愛媛県武道館	
指導対象	管内女性農業者（12人）	連携機関	農地・担い手対策室、JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	<p>○女性農業者間のネットワーク強化を図るため、中予地域全体での若手女性農業者やJAの農業研修生を対象とした交流会を初めて開催した。</p> <p>○交流会では、参加者のプロフィールや各地区の活動報告があり、伊予地区の女性組織「葉れるや」の組織化に至った経緯や興居島「しとらす」での、本年梅雨期の豪雨で被災した仲間への摘果作業による共助活動などが紹介された。</p> <p>○また、「楽しく農業をするために！」をテーマにグループワークを行い、互いの悩みやその解決策、それぞれの地域の魅力などを話し合った。</p>			
結果と今後	<p>○初めて顔を合わす参加者が多く、普段会う機会がない中予地域の若手女性農業者同士が情報を交換し、交流を深めることができ、互いに良い刺激となった。</p> <p>○今回の交流会後、新たに2人が「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」に加入した。</p> <p>○当室では、今後も活躍できる女性農業者の育成を目指して支援を継続する。</p>			
				<p>左：交流会でのディスカッション 右：被災した仲間への共助作業(しとらす)</p>



標 題	販促イベント「つるむらさきフェス」開催		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年8月19日	場所	末広マート立花店（松山市立花）	
指導対象	つるむらさき栽培者他	連携機関	JA えひめ南、(株) フードスタイル、(有) 安岡蒲鉾店	
普及指導内容	<p>○旧三間町が県内主産地である「つるむらさき」の認知度向上と需要拡大を図るため、中予地域の販売実績がある店舗を丸ごとジャックした販促イベント「つるむらさきフェス@スエヒロマート」を開催した。</p> <p>○当日は、当室職員や生産者、JA職員らが「つるむらさきマイスター」として店頭立ち、レシピや産地情報の提供と合わせた青果販売のほか、児童らを対象とした食育企画を実施。さらに、同店舗の人気メニューや地元業者との限定コラボ商品（スムージー、じゃこ天等）を販売した。</p>			
結果と今後	<p>○つるむらさきは予定数量を完売し、食育企画で用意していた100人分の試食は児童らの「美味しい！」という意見とともに瞬く間になくなる等、大変な賑わいを見せた。また、SNSや新聞にも取り上げられるなど、本品目の認知度向上につながった。</p> <p>○9月にはメディアを通じた広報活動を予定。今後、量販店における販促活動についても生産者やJAと協議を重ねつつ、連携して取り組んでいく。</p>			
				
つるむらさきがいっぱい		積極的にPRする生産者		続々売り切れるコラボ商品

標 題	県内初！くりのドローン防除を実証		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年8月21日	場所	くり園地（内子町）	
指導対象	JA 愛媛たいきくり部会農家（2人）	連携機関	農林水産研究所、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○管内のくり園は傾斜地が多く、夏場の防除作業は高齢農家の負担となっていることから、ドローンによる防除作業の省力化実証を開始した。</p> <p>○関係者らが効率的で安全な飛行ルートなどを確認した後、今回は生育後半に果実を加害する害虫に対する薬剤をドローンで散布した。また、感水紙を用いて薬剤の付着状況を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○散布時間（散布開始から終了までの時間）は1分/a程度で、薬剤の付着状況は若木と成木どちらにおいても樹冠上部と下部に一定の付着が確認できたため、通常の防除に比べて大幅な省力化が期待できる。</p> <p>○9月上旬には大洲市内の園地でも同様の実証を行うとともに、収穫期には果実の被害状況を調査し防除効果を確認、評価する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：オペレーターによる散布</p> <p>右：薬剤の付着状況を調査</p> </div> </div>				

## えひめ農業NOW

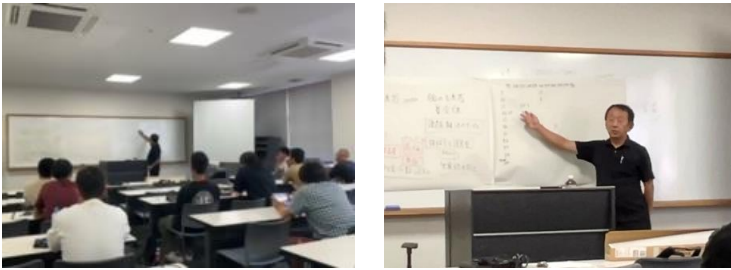
標 題	さといも疫病対策に新たな連絡体制を構築		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月3日、16日	場所	—	
指導対象	管内さといも生産者	連携機関	管内 JA・青果業者、県病虫害防除所	
普及指導内容	<p>○8月はさといも疫病の「蔓延警戒期」であり、初発の早期発見、発生状況の情報共有による早期の拡大防止対策を図るため、8月3日に管内 JA・青果業者等と連絡調整し、相互の連絡体制を構築した。</p> <p>○また、この連絡体制の下、生産者へ本病に係る情報を伝達するとともに、早期防除の徹底等を図るため関係機関と発生状況調査を実施し、8月16日に資料「さといも栽培管理ニュース」を発行し、情報提供した。</p>			
結果と今後	○今後は、台風通過後等の本病の急激な拡大が懸念される場合、構築した連絡体制を活用して、迅速な情報共有と防除指導を行う。			
				指導資料「さといも栽培管理ニュース」

標 題	さといも省力栽培実演会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月7日	場所	西条市丹原町	
指導対象	さといも生産者他（35人）	連携機関	農事組合法人あぐりん川根、JA周桑、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○さといも栽培における農薬散布は、近年、疫病対策等で防除回数が増えており、労力負荷が大きく栽培面積の拡大を阻害する要因の一つとなっている。</p> <p>○この問題を解決する省力化技術の導入・普及を図るため、県農林水産研究所の協力を得て、「ハイクリアランス乗用管理機による農薬散布作業」の実演を行った。</p>			
結果と今後	○法人等が利用している乗用管理機の活用を検討する等、高い関心を示す参加者も見受けられたことから、今後も、更なるさといも産地規模拡大に向け、関係機関等と連携して省力化技術の現地実装を推進する。			
				<p><b>【ハイクリアランス乗用管理機】</b> 最低地上高が通常の乗用管理機よりも高いため、畝間を跨いでも、農作物を傷めることなく防除、中耕等の作業を行うことができる</p>
研究員より説明を受ける参加者		農薬散布作業の実演		

標 題	農福連携農作業受注システム試験運用へ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月24日	場所	東予地方局西条第2庁舎	
指導対象	農福連携に取り組むさといも部会員 (16人) 西条市農福連携共同窓口(13事業所)	連携機関	JA周桑、西条市、東予地方局地域福祉課	
普及指導内容	<p>○局予算「農福連携デジタル化支援事業」(令和4～5年度)において農作業受注システム検討会議を開催した。</p> <p>○検討会議では、事業のアドバイザーである株式会社 KIRI の高橋氏が、昨年度から検討を重ねてきた農作業共同受注システムの内容と操作方法について説明した。</p> <p>○その後、集落営農組織、福祉事業所、JA、市及び県関係者が同受注システム運用版の動作確認等を行うとともに、今後の農福連携の推進方法を協議した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、同システムに関心のある西条市周桑地区の集落農業組織6法人、個人農家10人、JA周桑及び福祉事業所13事業所が令和5年9月～令和6年3月までのさといも収穫作業の受発注に活用するとともに、高橋アドバイザーが、農家と福祉事業所の意見を調整しながらシステム運用の検証と改修を進めていく予定。</p> <p>○当室は、システムを活用した農家と福祉事業所の効率的な利用体系を構築し、西条市内の農福連携の定着を目指す。</p>			
				<p>左：利用法を確認する福祉事業者と集落農業組織</p> <p>右：システムの操作方法を説明するアドバイザー</p>



標 題	新規就農者・就農予定者が土づくり等を学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月7日	場所	今治市朝倉、国分	
指導対象	新規就農者他(13人)	連携機関	JA(えひめ未来、周桑)、日本政策金融公庫、今治支局地域農業育成室	
普及指導内容	<p>○新規就農者等の技術習得による早期経営確立に向けて「第4回就農初期農業者研修会」及び「西条地区青年農業者連絡協議会視察研修会」を合同開催した。</p> <p>○今回のテーマは土壌消毒で「露地野菜における太陽熱消毒」と「施設野菜における土壌還元消毒」について今治市の農家2人から説明があった。</p> <p>○当室からは有機 JAS やエコえひめ農産物の認証制度の概要について説明するとともに、農作業中の熱中症対策を呼びかけた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「具体的な土壌消毒の作業工程を理解することができた」「今後の土づくりの参考にしたい」との感想が聞けた。</p> <p>○今後、「ハウスの天ビニールの張替え作業」について受講希望者を募る予定。</p>			
				<p><b>【太陽熱消毒】</b> 太陽熱によって地温を上昇させ、土壌中の病原菌やセンチュウ等を死滅させる方法。</p> <p><b>【土壌還元消毒】</b> 土壌に米ぬか等の有機物をすき込み、土壌微生物によって土壌を還元化し消毒する方法。</p>
太陽熱消毒の説明		土壌還元消毒の説明を受ける参加者		








標 題	青年農業者協議会員が農業技術経営を学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月19日	場所	西条市総合福祉センター	
指導対象	青年農業者（10人）	連携機関	西条市、新居浜市	
普及指導内容	<p>○会員の経営改善や組織活動の一助として、今後の地域農業の振興に資することを目的に「西条地区青年農業者連絡協議会勉強会」の開催を支援した。</p> <p>○勉強会では、石川県の株式会社ぶった農産代表取締役社長 佛田氏を講師に迎え、青年農業者の経営力向上のため、農業技術経営に関する講演を行った。</p>			
結果と今後	<p>○講師から、「技術経営とは、持続的発展のために技術が持つ可能性を見極めて事業に結びつけ、経済的価値を創出していく経営」であると指導があり、受講者らは、経営の課題解決のためには農家間の技術に関する情報共有や協働関係の構築が重要であることを再認識した。</p> <p>○当室は、今後も研修会や先進地視察を始めとした青年農業者の活動を支援する。</p>			
		<p>左：講師の熱弁に聞き入る青年農業者 右：農業技術経営を説明する講師</p>		


標 題	令和5年度第5回就農初期農業者研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月28日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者（31人）	連携機関	県農業共済組合、(一社)農山漁村文化協会、JA周桑、新居浜市、西条市、日本政策金融公庫	
普及指導内容	<p>○新規就農者及び就農予定者が農業経営者として早期に自立し、地域の担い手として活躍できるよう、農業経営に必要な基礎知識や基本技術の習得を図るため、「就農初期農業者研修会」を開催した。</p> <p>○当室は、さとも疫病の対策技術について説明後、実際に病斑から実体顕微鏡を用いて病原菌を同定する実習を行った。</p> <p>○県農業共済組合からは「収入保険制度」、黒河祐二税理士からは「始めてみませんか？青色申告」、(一社)農山漁村文化協会からは、「ルーラル電子図書館で探す農業の魅力」について説明を受けた。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「青色申告を勉強する機会を求めているのでありがたい」「この研修会に参加するようになったことで情報交換できる仲間ができた」との声が聞けた。</p> <p>○次回9月に「野菜の病害虫防除対策」に関する研修会を開催予定。</p>			
		<p>(一社)農山漁村文化協会の講演</p>		


標 題	地産地消・食育推進連携会議を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月3日	場所	東予地方局	
指導対象	東予5市町教育関係課、学校給食関係課、農林水産関係課、各JA、流通業者等	連携機関	東温市学校給食センター	
普及指導内容	<p>○東予地区学校給食関係者で構成する「地産地消・食育推進連携会議」を開催し、令和5年度「デジタルを活用した地産地消・食育推進事業」の主な取組みを説明した。</p> <p>○優良事例として、東温市立南吉井小学校栄養教諭 坂田香代子先生による「学校給食における地産地消の推進」の講話を通して、地産地消の波及を図った。</p> <p>○学校給食の地場産品利用推進に向けた取組みについて意見交換を行い、関係機関が情報を共有し、課題や目標の設定が重要であることを確認した。</p> <p>○当室からは、各市町で連携する場を作るよう働きかけた。</p>			
結果と今後	<p>○東温市では、栄養教諭自ら生産者の元へ赴き、信頼関係を構築したことで地場産品を給食で利用しやすい状況につながったことがわかった。</p> <p>○意見交換では、地場産品の納入にあたる課題について、生産者・行政・納入側それぞれの視点から検討できた。</p> <p>○今後、各市町において地場産品利用率向上に向けた今後の取組みについて検討し、次の連携会で計画を報告する予定。</p>			
				<p>左：事例紹介</p> <p>右：地場産品利用推進について意見交換</p>




標 題	地場産品を活用した給食メニュー等のレシピ動画撮影		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月22日、29日	場所	西条市福祉センター、新居浜市福祉センター	
指導対象	—	連携機関	西条市、新居浜市	
普及指導内容	<p>○西条市・新居浜市の公立小中学校に勤務する栄養教諭協力の下、局予算「デジタルを活用した地産地消・食育推進事業」におけるポータルサイトのコンテンツの一つであるレシピ動画を撮影した。</p> <p>○レシピは、地域の郷土料理や地場産品を活用した地産地消給食メニュー等を西条市・新居浜市からそれぞれ選定した。</p>			
結果と今後	<p>○西条市では、郷土料理の「押し寿司」「芋炊き」、地産地消給食メニューの「麦バーグ」「なすじゃこカツ」、地元の果物を活用した「塩麴サラダ」の5品を撮影した。</p> <p>○新居浜市では、郷土料理の「芋炊き」「こくしょう」「ざんき」、地産地消給食メニューの「新居井」「えび天かき揚げ」「にんじんしりしり」「麻婆茄子」の7品を撮影した。</p> <p>○今後、動画を編集し、随時YouTube及びポータルサイトにアップロードする予定。</p>			
				<p>押し寿司 西条市神拝地区の郷土料理。家族が集まる時やお祭りの時に作られてきた。酢飯の上にコノシロや錦糸卵、干しシイタケなどの具を乗せて押したもの。</p>
郷土料理の押し寿司		えび天かき揚げを撮影		


標 題	新規就農者夫婦が家族経営協定締結で共同経営をスタート		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年8月17日	場所	金生公民館（四国中央市金生町）	
指導対象	家族経営協定締結農家（1戸）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○令和4年にUターン就農した新規就農者が夫婦で経営参画するに当たり、安定的な経営確立と収益分配を行うことをポイントに、家族経営協定書の作成を支援した。</p> <p>○調印式は地元農業委員、市農業振興課長及び農業指導班長が立会人となり、明確な目標を定めた協定書を基に、今後は夫婦共同で観光農園を軸とした経営基盤を確立していくという意識統一が図られた。</p>			
結果と今後	<p>○締結農家からは「今までの経験を最大限に生かし、収益を上げていきたい」「地道に一步一步進んでいきたい」などの決意が語られ、立会人からは「資材価格が高騰するなど厳しい農業情勢の中、協定締結は大変意義のある取組み」「近い将来、認定農業者となって地域農業を支えて欲しい」などのエールが送られた。</p> <p>○夫婦共同で認定新規就農者となり、今後、ブルーベリーとシャインマスカットの観光農園のオープンに向けた準備を進めている。</p> <p>○同市では平成29年以來の調印式で、家族経営協定締結数は計21戸となった。</p>			
				<p>左：調印式で今後の決意を表明</p> <p>右：今後の経営発展に向け意識統一</p>


標 題	学校給食米の稲刈り体験及び食育クイズを通じた地産地消の推進		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年8月26日	場所	愛媛さといも広域選果場及びほ場 （四国中央市土居町蕪崎）	
指導対象	市内小学校児童及び保護者(260人)	連携機関	四国中央市、JA うま、県農業共済組合宇摩出張所	
普及指導内容	<p>○同市地産地消推進委員会主催の「第19回学校給食米収穫祭」の開催を支援した。</p> <p>○当班は、食に関する身近な話題を盛り込んだ「食育クイズ」を企画・実施し、児童や保護者を対象に、食に関心を持つことと地産地消の重要性を啓発した。</p> <p>○この他、鎌を使った稲刈り体験や昔の農機具実演、おにぎり試食会を実施し、児童はお米ができるまでの大変さと手づくりの楽しさを実感できる食育体験となった。</p>			
結果と今後	<p>○児童は炊き立ての新米で手作りしたおにぎりを頬張りながら、「手作りのおにぎりはとても美味しい」「今から学校給食が楽しみ」などの感想を述べていた。</p> <p>○保護者からは「田に直接入り、農産物に直に触れることは貴重な体験」「生産者から手ほどきを受けて作業の大変さを知った」「産直市などで地元の農産物を確認したい」などの声が寄せられ、農業体験と地元食材への強い関心が見られた。</p> <p>○幼少期の食農体験は地産地消の推進上重要であることから、今後も地元農産物の消費拡大と合わせた指導、支援活動を積極的に展開していく。</p>			
				
稲刈りの後は、お楽しみのおにぎりパーティ		食育クイズで食べ物博士になろう！		


標 題	JA 周桑と普及ビジョン推進連携会議を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年8月2日	場所	東予地方局第二庁舎	
指導対象	JA 周桑（3人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○今年度からスタートした普及ビジョンを効率的に進めるため、普及ビジョン推進会議を開催し、JA 周桑と具体的な取組内容や連携事項等について打ち合わせを行った。</p> <p>○当室から、戦略品目である「いちご」では栽培環境モニタリングデータを活用した単収の向上、「メロン」では栽培技術のバラつき改善による収量・品質の安定化と秋作の安定生産、「花木」では主力品目の単収向上技術と新規有望品目の選定を説明した。</p> <p>○JA からは、いちご等の単収向上、荒廃果樹園の転換品目として花木への期待や JA の生産計画等について説明があった。</p>			
結果と今後	<p>○連携会議により相互の産地振興への取組みについて理解を深めることが出来た。今後、実証ほの運営や講習会の開催等において、一層の連携強化を図っていくこととなった。</p>			
				普及ビジョン推進について連携協議


標 題	秋作メロンの安定生産技術の実証を開始		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年8月24日	場所	西条市周桑地区	
指導対象	JA 周桑秋作メロン生産者（10人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○当室は JA 周桑と連携し、秋作メロンの高品質生産に活用するデータを収集するため、実証ほを設置した。</p> <p>○秋作メロンは、夏から冬に向かう作型で高品質な果実の生産が難しいことに加え、当 JA 管内では秋作栽培が開始されてから2年と年数が浅いことから、適切な栽培技術が確立されていない。</p> <p>○そこで、糖度が上がりにくい原因を探ることを目的に、3戸の農家ほ場及び JA 周桑の実証ほに土壌水分センサーを設置し、定期的な生育調査を行うこととした。</p>			
結果と今後	<p>○今後、約1週間おきに生育調査と土壌 pH、EC の測定を行うとともに、土壌水分センサーによる毎時の土壌水分の推移を記録し、結果をとりまとめて講習会で農家へ指導する予定。</p> <p>○データを収集・解析することで、生育やハウス内の土壌環境に応じた秋作の高品質安定生産技術の確立を目指す。</p>			
				<p>左：設置した土壌水分センサー</p> <p>右：実証を開始した農家ほ場</p>


標 題	さととも低コスト肥料の栽培実証		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年8月10日	場所	管内さととも5ほ場	
指導対象	JA おちいまばりさととも部会	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○肥料の価格高騰やコーティング肥料による海洋マイクロプラスチックが問題となっている中、JA さとも部会と連携して低コスト肥料を活用した新たな施肥基準を検討するため、管内5か所に実証ほを設置している。</p> <p>○実証する施肥体系は、安価な鶏ふんペレットを主体として石灰窒素とけい酸加里とさととも有機ペレット JIN を利用し、肥料コストを約3割削減した。</p> <p>○定期的に生育状況や土壌肥料分（EC 値）を測定し、当部会の役員会で結果を随時報告し、効果を検討した。</p>			
結果と今後	<p>○生育状況について、草丈は慣行栽培と同等もしくは1～2割程度低く、葉色は薄い。土壌中のEC値はすべてのほ場で0.1mS/cm以下と低く推移しており、今後も引続き調査を継続し、10月に収量調査を行う。</p>			
				
				<p>左：鶏ふん区の生育状況 中：生育状況を調査 右：JA さとも部会役員会で検討</p>



標 題	高温期におけるさととも栽培管理を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年8月2日	場所	(株)ファーム咲創 倉庫他	
指導対象	JA おちいまばりさととも部会員（40人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○さとともは概ね順調に生育しているが、平年より高温で推移しているため、第2回さととも栽培講習会を開催し、猛暑における栽培管理のポイントを指導した。</p> <p>○当室より病害虫の発生状況や高温期でも生育を停滞させず孫芋の肥大促進を図るためのかん水の重要性を説明したほか、ベテラン農家による草勢を維持するために液肥をかん水時に流し込みの実演を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、高温期に発生しやすいハダニ類対策等の活発な質問があるなど、9月中旬からはじまる収穫に向け生産者の意欲の高さがうかがえた。</p> <p>○今後もさとともの生産拡大を図るため、気象等の状況に応じた栽培管理指導に取り組んでいく。</p>			
				<p>病害虫防除等について指導</p>

標 題	菊間地区「紅プリンセス」栽培講習会		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年8月28日	場所	JA おちいまばり菊間支店及び現地ほ場	
指導対象	菊間地区「紅プリンセス」生産者 (14人)	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	<p>○管内で栽培面積が増加している「紅プリンセス」の栽培管理や品種特性の周知を目的に栽培講習会を開催した。</p> <p>○会では、JA から栽培マニュアルの説明、当室から現地実証ほの設置、果樹研究センター等からす上がり対策等の情報について報告を行った後、同支所管内のほ場(4年生)に移動し、具体的な栽培管理や仕上げ摘果についての説明、実演を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は試行錯誤を重ねながら栽培を行っており、栽培に関する話を初めて聞く人が多く、摘果方法、整枝方法、鳥害対策等について活発な質問がなされ、「紅プリンセス」に対する関心の高さがうかがえた。</p> <p>○今後も JA 等と連携しながら「紅プリンセス」実証試験等による栽培技術確立や栽培管理の徹底指導に努めていく。</p>			
				現地での仕上げ摘果目合わせ

標 題	就農予定者を対象に経営開始・準備研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年8月30日	場所	今治市役所	
指導対象	新規就農予定者(16人)	連携 機関	今治市、上島町、JA(おちいまばり、今治立花)、日本政策金融公庫	
普及指導 内容	<p>○JA 等の研修施設で生産技術を習得中の研修生等を対象に、農業経営を始めるうえで認定新規就農者制度や制度資金・補助事業等を活用するための研修会を開催した。</p> <p>○就農に向け、各自が将来の目指している経営ビジョンや目標を明確にして綿密な青年等就農計画書を作成することや、就農初期に必要な資金や補助事業の活用について各担当機関から説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「経営開始に向け事業計画を立てる必要性が理解できた」「活用できる資金や補助事業等について情報を得ることができ就農に向けた準備を進めることができる」等の感想が聞けた。</p> <p>○次年度は参加者のうち10人が就農を予定しており、今後も関係機関が連携しサポート体制を強化し支援していく。</p>			
				認定新規就農者制度を説明




標 題	青年農業者を対象に「やさいバス」の研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年8月21日	場所	今治市役所第3別館	
指導対象	青年農業者等（9人）	連携機関	やさいバス株式会社	
普及指導内容	<p>○青年農業者の販路拡大支援を目的として、DXを活用した新たな流通システムとして期待されている「やさいバス」の研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、やさいバス株式会社から「やさいバス」のメリットや販売額向上のための工夫、出荷時の注意事項等の説明があった。</p> <p>○当日は、農業者が自身のスマートフォンを用いて、出荷者登録の方法等を確認し、取組み開始に向け機運を高めた。</p>			
結果と今後	<p>○農業者からは「比較的販路の少ない有機農産物の販路拡大に期待でき、出荷時のロス削減にもつながる」「新たな流通チャネルの一つとして検討したい」と前向きな意見があがった。</p> <p>○現在、今治管内には「やさいバス」の集配拠点が設置されていないため、今後、バス停の設置や導入に向けて協議を行っていく。</p>			
		<p><b>【やさいバス】</b> やさいバス株式会社が提供する受発注システムで、ECサイト上で購買者から直接注文を受けた生産者が、最寄りの集配拠点（バス停）に商品を持ち込むと、配送業者が購買者のいるバス停まで配送するシステム。</p>		
「やさいバス」研修会				



標 題	集落営農組織向けの労務管理講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年8月18日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部	
指導対象	JA おちいまばり水田農業生産法人協議会	連携機関	JA おちいまばり、えひめ農業経営サポートセンター、今治市	
普及指導内容	<p>○集落営農組織は、規模拡大や経営品目の増加に伴い農繁期にアルバイトを雇うなどで対応しているが、今後は経営継承の観点から社員として雇用し、育成していく必要があるため、労働環境整備に向けた講習会を開催した。</p> <p>○えひめ農業経営サポートセンターから講師を招き、農業法人における労務管理のポイントについて説明し、就業規則の策定や社会保険の加入などについて指導した。</p>			
結果と今後	<p>○当協議会員からは、「優秀な人材を雇用するために就業規則等を作成し、労働環境を整え魅力ある会社にしてきたい」との声が上がった。</p> <p>○今後も関係機関と協力し、当協議会活動を支援するとともに、集落営農組織に対して個別指導を行い、労働環境整備に向けて指導する。</p>			
<p><b>【水田農業生産法人協議会】</b> 今治地域の集落営農組織の経営発展のために、集落営農組織7法人及びJA、市、県支局で構成する協議会</p>				
労務管理のポイントを説明				




標 題	第 8 回上浦地区早期復興ワーキングチームを開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和 5 年 8 月 17 日	場所	JA おちいまぱりしまなみ共選会議室	
指導対象	上浦地区早期復興ワーキングチーム メンバー (23 人)	連携 機関	上浦地区早期復興ワーキングチーム構成 機関 (県・今治市・JA おちいまぱり)	
普及指導 内容	<p>○西日本豪雨で被災した樹園地の再編復旧工事が進む上浦地区において、関連事業の円滑な推進と早期の営農再開に資するため、第 8 回ワーキングチーム会議を開催した。</p> <p>○会議では、8 月末に整地作業が一部完了予定の井口工区 1.3ha と盛工区 1.0ha で復旧工事の進捗状況を確認し、整地完了後に開始する堆肥投入等の土づくり作業や 2～3 月の植栽に向けた大苗約 5 千本の育成状況などについて意見交換を行った。</p> <p>○また、復旧後の園地を生産性の高い未来型果樹園として整備する「再編復旧園発スマートアグリ推進事業」による機械・施設の整備計画等について、具体的に説明を行うなど関係する各事業の円滑な推進と効果的な連携に向けてメンバー間の意思統一を図った。</p>			
結果と今後	<p>○今年度は、防除用ドローンや気象観測装置、遠隔自動かん水装置等を整備するほか、営農に適した地域 (最低気温 - 3℃以上) を示す適地マップの作成を進める。</p> <p>○関係機関が一体となって各種事業の円滑な推進を図り、園地の早期の営農再開と未来型果樹園の実現に取り組む。</p>			
				<p>左：チーム会における協議 右：現地調査 (盛工区)</p>



標 題	「しまなみ食材フェア」の開催に向け協議		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 5 年 8 月 7、12、24 日	場所	今治支局、タオル美術館	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ	連携 機関	シン・エヒメ、タオル美術館	
普及指導 内容	<p>○局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環として結成した農産加工事業者グループと首都圏及び県内で観光客等に農産加工品を販売する事業者を交え、グループ員が生産する食材の PR イベントの開催について協議した。</p> <p>○また、年間 40 万人を集客するタオル美術館に、グループの商品を展示販売するコーナーの設置について同館等と協議した。</p>			
結果と今後	<p>○11/11～26 に松山市内 (伊織：城山ロープウェイ街)、1/12～31 に東京都内 (シン・エヒメ：丸の内) で、「しまなみ食材フェア」を開催することが決定。期間中には蛇口から出る有機みかんジュースや大三島ワインの飲み比べイベントなどを実施する。</p> <p>○タオル美術館には、グループの販売コーナーを常設設置することが決定。今後は出展する商品の選定やコーナーの装飾を進め 9 月にコーナーをオープンさせる予定。</p>			
				
シン・エヒメ担当者との打合せ		タオル美術館担当者との打合せ		常設コーナーに設置する大型パネル





標 題	イタリア野菜類の産地化に向けたマイナー品目の栽培実証スタート		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年8月2、16、23日	場所	栽培希望者の園地 今治支局	
指導対象	イタリア野菜類栽培希望者（4人）	連携機関	JA おちいまばり、トキタ種苗（株） 伊予農産（株）	
普及指導内容	<p>○イタリア野菜類の栽培実証に関心を示した生産者を対象に、栽培予定のほ場を個別に訪問し、さいさいきて屋の指導員を含めた3者で栽培開始に向けた具体的な栽培品目や定植時期等を協議した。</p> <p>○今治産イタリア野菜類の生産拡大・品質向上を目指し、イタリア野菜類の種子販売大手で栽培の知見も有するトキタ種苗（株）及び地元種苗会社の伊予農産（株）を招き、試験品種や閉鎖型育苗技術について説明し、今後の連携について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○栽培希望者及びトキタ種苗（株）等との協議から作付計画を作成し、閉鎖型育苗施設を利用した33品目の育苗を開始した。9月中旬から実証希望者へ苗を提供する。</p> <p>○今後は、トキタ種苗（株）と月1回栽培状況を確認し、品目、品種ごとの安定栽培技術の確立に向けて連携していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>生産者、JAとの栽培ほ場の確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>試験品種の播種作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>トキタ種苗（株）等との協議</p> </div> </div>				

標 題	連絡会議において基盤整備地での地力増進について報告		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月7日	場所	果樹研究センター	
指導対象		連携機関	松山市、伊予市、砥部町、JA（松山市、えひめ中央）、県果樹研究センター、中予地方局農村整備第一・二課	
普及指導内容	<p>○中予地区柑橘農業復興・再編連絡会議を開催し、管内8カ所で進めている樹園地再編整備の進捗状況等について協議した。</p> <p>○当室からは、緑肥作物による土壌改良と大雨による表土流亡防止に関する実証試験の進捗状況を報告し、関係機関からは各整備地区の進捗状況などについて情報共有した。</p>			
結果と今後	<p>○緑肥作物の栽培は基盤整備地における有効な土づくり方法の一つであるため、今後は、秋植品種の播種を行うとともに、土壌改善状況の把握のため、定期的な土壌分析を行う。</p> <p>○各整備地区のワーキングチーム会を機動的に行うことにより、営農計画の策定や補助事業の活用等の各種課題に対応していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: right;">左：中予地区柑橘農業復興・再編連絡会議 右：緑肥植物ソルゴの生育状況</p>				

標 題	さといもにおけるドローン防除実演会の開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月31日	場所	県農林水産研究所	
指導対象	さといも栽培農家（16人）	連携機関	県農林水産研究所、JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	<p>○さといも栽培の省力化技術の導入・普及に向け、ドローン防除実演会を開催した。</p> <p>○当日はさといもほ場 20a でドローンによる薬剤散布を行い、感水試験紙による葉への薬液付着程度を確認した。</p> <p>○また、県農林水産研究所より、ハイクリアランス乗用管理機による防除作業の省力化についても紹介があり、これら省力機械について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加した農家はドローンの実用性を体感し、「短時間で作業できるドローン防除に興味を持った」「株元まで薬液が付着することが理解できた」との声が聞かれ、ドローンの防除効果に関する理解を深めることができた。</p> <p>○畝立・定植から収穫まで、機械化体系による栽培を推進し、産地拡大を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ドローンの説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ドローンによる薬剤散布</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>薬液付着程度の確認</p> </div> </div>				

標 題	「中島トライアスロン」で農業女子がかんきつジュースの試飲会を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月27日	場所	松山市中島大浦	
指導対象	女性農業者（7人）	連携機関	松山市	
普及指導内容	<p>○中島の女性農業者組織「姫たちばな」は、昨年度から「ひめの国一次産業女子活躍推進事業」に取り組んでおり、当室では会員個々の技術向上や幅広い知識の習得を図るとともに、中島の魅力発信に向けた幅広い活動を支援している。</p> <p>○同組織は本事業の一環として、会員が持ち寄ったかんきつでジュースを試作し、4年ぶりに開催された「中島トライアスロン」のメイン会場で試飲会を実施。</p> <p>○選手と応援に訪れた一般消費者を対象に、「愛媛果試第28号」（紅まどんな）＋温州みかんの100%果汁ジュース（約400人分）を無料で振舞い、大会を盛り上げた。</p>			
結果と今後	<p>○試飲した消費者の反応は良好で、まだ販売してないことを惜しむ声が多く聞かれた。</p> <p>○スマホからQRコードにアクセスし、ジュースの感想などを記入してもらうアンケート調査を実施し、31人から回答を得ることができた。</p> <p>○今回のアンケート結果をもとに、ジュースの商品化を指導するほか、今後も、女性農業者の組織活動による先進地視察や栽培技術研修等について支援し、自らが行動する女性農業者の育成を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>左：ジュースを試飲する消費者 右：試作したかんきつジュース</p> </div> </div>				

標 題	一次産業従事者が農林漁業の魅力を発信！～えひめ農林水産アンバサダー及びレポーター委嘱式～		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月21日	場所	中予地方局	
指導対象	えひめ農林水産アンバサダー（4人）、レポーター（2人）	連携機関	農地・担い手対策室	
普及指導内容	○今年度から始まった県事業「えひめ農業魅力発信事業」の一環として、中予地域在住のえひめ農林水産アンバサダー及びレポーターの委嘱式を開催した。 ○委嘱式では、6人の農林漁業者に中予地方局長から委嘱状が交付され、アドバイザーとレポーターに就任した各人は、力強く今後の意気込みを語った。			
結果と今後	○委嘱された6人は、SNS等により農林水産業の魅力を広く発信することで、担い手の確保につなげることをしている。 ○本事業ではこの他にも大学・高校での出前事業や就業相談会でのセミナーなど、一次産業従事者自らが出向いて農業の魅力を伝えることとしており、当室では、引き続き農業者らの活動を支援する。			
				<p>左：委嘱状の交付 右：アンバサダー（前列）とレポーター（後列中2人）</p>

標 題	農業労働力確保対策研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月17日	場所	愛媛県生活文化センター	
指導対象	農業指導士、青年農業者代表、市町、JA等担当者（24人）	連携機関	松山地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導内容	○中予地域における労働力確保対策の推進に資することを目的に、有償ボランティア制度の活用について研修会を開催した。 ○（株）VOCEの北川裕子氏が南予地域で実施している「愛媛お手伝いプロジェクト」の仕組みと運営及び課題について研修した。 ○また、各機関・団体が労働力確保の取組状況を報告し、管内での現状と課題を共有した。			
結果と今後	○出席者からは「ボランティアにはどんな人が参加しているのか」「受入れのためにはトイレなど労働環境の整備が必要」との質問や意見があった。 ○今後、JAに働きかけ、本プロジェクトへの参画を検討するとともに、学生、パート、高齢者等中予地域ならではの多様な人材を活用した労働力確保体制の構築を目指す。			

【愛媛お手伝いプロジェクト】

農家のお手伝いを通して生産者と消費者の距離を縮め、地域の活性化を目指す取組。登録ワーカーはお手伝いの報酬として、クーポン券を受け取ることができる。



（株）VOCE 北川裕子氏によるプロジェクトの説明



意見を述べる農業指導士

標 題	野菜栽培の担い手確保・育成に向け勉強会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年8月27日	場所	伊予市農業振興センター及びJAえひめ中央新規就農研修センター	
指導対象	野菜栽培希望者及び就農希望者(6人)	連携機関	伊予市、JAえひめ中央	
普及指導内容	○伊予市農業振興センター新規就農者担当者会(事務局:伊予農業指導班)は、新たな野菜栽培者の掘り起こしと育成のため、野菜づくり勉強会を開催した。 ○土づくりや農薬の基礎知識、果菜類の栽培管理の基本、就農支援についての説明の後、JAえひめ中央新規就農研修センター野菜ほ場で、同センターの取組みやミニトマト栽培について講習した。			
結果と今後	○参加者からは、「気軽に参加して勉強できありがたい」「ほ場での研修は特に勉強になった」等の声があり、今後の就農相談について案内を希望する者もいた。 ○引き続き、就農に興味を持てるような基礎的な勉強会に加え、サラリーマンも参加しやすい休日に就農相談会等を開催していく。			



左：栽培の基礎について講習



右：研修ほ場の概要とトマト栽培について説明

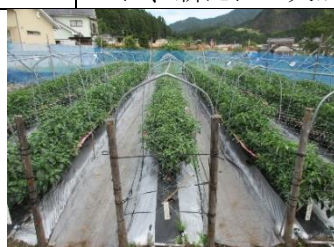

標 題	肥料高騰対策として樹園地の土壌分析・診断を強化		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年8月22日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	伊予地区果樹栽培農家(400人)	連携機関	伊予地区農業技術者連絡協議会果樹部会	
普及指導内容	○近年、肥料の価格高騰が農家の経営を圧迫しており、土壌診断に基づく適正施肥を推進するため、伊予地区農業技術者連絡協議会果樹部会と連携し、農家の園地土壌606点の分析(pH、EC値)・診断を行った。			
結果と今後	○分析の結果、pHは概ね50%、ECは概ね40%のほ場が適正值の範囲(pH:5.5~6.5、EC:0.3~0.6)にあった。 ○今後は、分析結果をもとに各農家の診断カルテを作成し、土壌改良と適正施肥を促す。			


【伊予地区農業技術者連絡協議会  
果樹部会】  
県、市町、JA、農業共済、全農えひめ、伊予農業高等学校等の伊予地区の関係機関からなる団体





関係機関が協力して  
土壌分析を実施



標 題	クラウドセンシングを活用した雨よけトマトの栽培管理		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年8月1日	場所	久万高原農業指導班 実証ほ場	
指導対象	雨よけトマト栽培農家 (82人)	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	<p>○当班では、雨よけトマト栽培における夏季の高温による生理障害等への対策として、施設内への細霧冷房システムの導入を推進しているが、使用時期や方法の違いにより施設内が多湿となり、病害の誘発につながる事が懸念されている。</p> <p>○通常、施設内には温湿度計を設置して栽培管理の参考としているが、施設外にいる場合等、即時確認できない場面も多い。</p> <p>○そこで、当班実証ほ場の細霧冷房システム導入ハウス内に、クラウドセンシングを利用した環境モニタリング装置を設置し、施設内の温度、湿度、CO<sub>2</sub>濃度等のデータをクラウドに蓄積することで当該データを随時スマホ等で確認できるシステムを導入した。</p>			
結果と今後	<p>○蓄積された施設環境データや実証結果から、効果的な細霧冷房等の使用方法を検討し、夏期高温対策の確立を図る。</p> <p>○クラウドセンシングを用いた栽培管理の実証展示を通じ、普及指導員の農業DX技術の習得とデータ活用による効果的な指導につなげるとともに、施設環境のモニタリング手法として農家への導入も啓発する。</p>			
				<p>左：環境モニタリング装置の設置 右：スマホの画面に表示された施設環境データ</p>



標 題	有機質資材の利用によるピーマンの肥料コスト低減に取り組む		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年8月1日	場所	久万高原農業指導班 実証ほ場	
指導対象	ピーマン栽培農家 (110人)	連携機関	JA松山市	
普及指導内容	<p>○当班では農業資材価格の高騰対策として、実証ほ場において、ピーマン栽培での肥料コスト低減試験に取り組んでいる。</p> <p>○5月に施用した基肥において、従来の化学肥料施肥区と、鶏ふん等の有機質資材を使用し肥料コストを7割以下に削減した試験区を設定し、生育等を調査している。</p>			
結果と今後	<p>○収穫期を迎えた8月下旬では、各試験区での収量、品質等に大きな差は現れていない。</p> <p>○栽培終了後には成績を取りまとめ、その優位性等を確認し、有機質資材等を利用した施肥体系の見直しによるコスト低減を図る。</p> <p>○なお、町内の一部農家は環境に配慮した栽培に取り組んでおり、「愛媛県みどりの食料システム基本計画」における環境負荷低減事業活動の実施計画（エコファーマー）に、新たに9人が認定された。</p>			
				<p>左：肥料コスト低減試験実証ほ場 右：有機質資材を用いた肥料</p>


標 題	シンテッポウユリ彼岸時期の安定出荷に向けて		機関名	中予地方局産地戦略推進室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年8月7日～	場所	東温市川上、久万高原町入野	
指導対象	シンテッポウユリ栽培農家（19人）	連携機関	JA松山市	
普及指導内容	<p>○シンテッポウユリの需要期安定出荷に向けて、5月から東温市と久万高原町（久万高原農業指導班）の4ほ場で栽培実証を行っている。</p> <p>○東温市のほ場では、彼岸出荷に適する4品種の比較実証と定植直後の高温遭遇による生育抑制（ロゼット）回避のための苗冷蔵処理を実施。</p> <p>○高冷地である久万高原町では、3品種における定植時期の違いによる生育や収穫時期の実証に取り組んでいる。</p>			
結果と今後	<p>○東温市のほ場では、定期的に花茎の伸長状況や採花本数を調査しており、引き続き関係機関と連携し、彼岸時期の安定出荷に向けた品種選定と栽培技術の検討を行う。</p> <p>○久万高原農業指導班のほ場では、定期的な病害虫防除の結果、目立った病害虫の発生もなく8月上旬から収穫が始まり、採花本数、花輪数等を調査中である。</p>			
				<p>左：収穫前のシンテッポウユリ 右：調整後の草姿</p>

標 題	特別栽培米「三間米」の高品質生産を支援		機関名	南予地方局地域農業育成室	
年月日	令和5年8月10日	場所	宇和島市三間町		
指導対象	三間町特別栽培米生産組合（15人）	連携機関	（株）今治デパート		
普及指導内容	<p>○家畜ふん堆肥を中心とした施肥体系によりエコえひめ認証を取得し、県内スーパーや道の駅、宇和島市のふるさと納税の返礼品等として販売・出荷されている「三間米」が収穫期を迎えるにあたり、収穫前の水管理や乾燥調製の留意点を指導した。</p> <p>○組合員は、鶏ふん、牛ふんなどの家畜ふん堆肥や油粕などを独自のこだわりで組み合わせた土づくりを行い、高騰する肥料価格面でも有利な栽培を実践している。</p>				
結果と今後	<p>○もみの黄変率に応じた刈取り適期の徹底や収穫にあたっての農作業安全に関する注意点を指導した。</p> <p>○当室では、引き続き「三間米」に安全安心の付加価値を付けた同組合による生産・販売活動を支援する。</p>				
					<p>左：収穫前管理の講習 右：ほ場で刈取り適期の確認</p>



標 題	新規就農希望者の受入体制構築に向けて親方農家を訪問		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月16、17日	場所	宇和島市	
指導対象	宇和島市内かんきつ農家（3人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市	
普及指導内容	<p>○新規就農希望者に対して、就農相談から体験・就農定着までを支援する育成システムの構築を関係機関に提案し、昨年から宇和島市農業支援センター（事務局：宇和島市農林課）を核として、相談・体験・研修の受入支援を行っている。</p> <p>○地域の受入体制を構築する中、現在、68戸の「親方農家」候補者をリスト化しており、順次、これらの農家に制度の趣旨を説明している。</p> <p>○今回、3人の親方候補農家を訪問し、当室から研修生の受入れにかかる協力と地域アドバイザーとしての活動を依頼するとともに、新規就農者の確保について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○訪問した親方農家からは、受入期間や宿泊の可否に応じ、できるだけ協力したいとの意見が聞かれた。</p> <p>○今後も、県内外からの担い手候補者のスムーズな就農定着に向け、親方農家や同支援センター等と連携して体制整備に取り組む。</p>			
				<p>左：親方候補農家に説明 右：受入経験のある親方農家との意見交換</p>



標 題	女性農業者のスキルアップを目指した研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月4日	場所	愛南町御荘文化センター他	
指導対象	女性認定農業者、女性農業委員他	連携機関	宇和島市、企業組合パトリックッキング、(株)吉田農園	
普及指導内容	<p>○農業分野で女性の経営参画を推進するため、農産物の加工技術や農業経営のスキルアップを目的とした研修会を開催した。</p> <p>○企業組合パトリックッキングに立ち上げ経緯や6次産業化、食育活動などの取り組みについて講演をいただくとともに、「河内晩柑」を使った加工実習を通じて農産品加工技術について指導を実施した。</p> <p>○また、「河内晩柑」を大規模に栽培する(株)吉田農園からは、園地整備による労働環境改善や販売戦略などについて講義があった。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「(株)吉田農園の顧客管理によるリピーター確保の工夫や軽労働化・省力化への取り組みはとても参考になった」「学んだ加工技術は、他のかんきつでも応用してみたい」といった意見が聞かれた。</p> <p>○10月には鳥獣害対策の研修を予定しており、今後も、女性農業者の経営参画とスキルアップを目指し支援していく。</p>			
				<p>左：(株)吉田農園の経営方針等を学ぶ 右：かんきつ加工の研修</p>



標 題	鬼北地域における「紅まどんな」栽培を若手農業者に紹介		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年8月8日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	青年農業者、農業公社研修生他(人)	連携機関	鬼北町、松野町	
普及指導内容	<p>○鬼北地区の青年農業者及び農業公社研修生等を対象に、所得向上をテーマとした研修会を開催した。</p> <p>○高収益が見込める品目として、当班が「南予儲かる農業人材育成事業」(局予算)で取り組んでいる「鬼北地域における紅まどんなの栽培実証」について紹介。</p> <p>○昨年度の実証結果から、果実の肥大や品質はみかん研究所と同等であったことや、年間栽培スケジュール、経営収支等について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「収穫時期の状況を見たい」「栽培を検討してみたい」など、「紅まどんな」の導入による複合経営について高い関心が寄せられた。</p> <p>○今後、現地セミナーの開催も計画しており、今年度の生育状況や果実品質等の推移等について情報提供するとともに、鬼北地区における導入について検討を進める。</p>			
				<p>左:熱心に講義を聞く参加者 右:実証栽培のハウス（仕上げ摘果後）</p>


標 題	キウイフルーツ花粉生産の低コスト施設を検討		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年8月2日	場所	松野町役場	
指導対象	松野町キウイフルーツ花粉事業組合 生産者（3戸）	連携機関	松野町、(株)松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○国内初のキウイ花粉ビジネスに取り組んでいる同組合では、令和5年産の花粉生産が好調であったことを受け、組合員2戸が簡易ハウスを用いた面積拡大に取り組むことになったため、検討会を開催し、意見交換を行った。</p> <p>○当班では、簡易ハウスの設置にあたり、県果樹研究センターの事例を参考に、既存施設より高さや間口を小型にして導入コストを低減するとともに、収穫作業の労働負荷軽減を図るため、枝を吊り下ろして手元で収穫が可能となる「Tバー整枝法」を導入すること等を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○年度内の施設整備及び定植を目指し、補助事業の活用も検討する。</p> <p>○引き続き、簡易ハウスにおける栽培のポイント等を整理し、実用化を支援する。</p>			
		<p>キウイ花粉の簡易ハウス栽培の検討</p>		







標 題	儲かる農業愛南地区交流セミナーを開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年8月4日	場所	愛南町城辺	
指導対象	就農候補者、若手かんきつ生産者	連携機関	愛南町	
普及指導内容	<p>○愛南地区の就農候補者及び若手かんきつ生産者を対象に、「河内晩柑」の高品質省力栽培技術をテーマとした研修会を開催した。</p> <p>○当班から、「南予儲かる農業人材育成事業」で取り組んでいる「河内晩柑」の縮間伐による省力化実証の結果や、年収1千万円を想定した経営指標を紹介した後、町内の優良園地で、ドローン画像を活用した縮間伐やカットバックの実施状況について現地研修を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「間伐の効果が実感でき、その必要性がよく理解できた」など、作業性の改善に向けた意欲的な意見が上がった。</p> <p>○今後も、南予全域を対象とした新規就農者向け研修を計画しており、儲かる農業を実践している生産者の講演や新規就農の事例発表を予定している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">左：「河内晩柑」の栽培技術 右：優良園地での現地研修</p>				


標 題	飼料用米の規模拡大に向けて省力化技術の導入を検討		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年8月23日	場所	愛南町広見地区	
指導対象	農事組合法人ぽぷら愛南及び飼料米生産農家（4戸）	連携機関	南宇和地区営農指導連絡推進会議 作物園芸部会	
普及指導内容	<p>○飼料用米品種の栽培にあたっては、生育期間の延長により肥料切れが問題となることから、ドローンによる省力的な追肥について周知するため、新品種を試作中の農事組合法人ぽぷらにおいて実演会を開催した。</p> <p>○専用肥料やドローン運航手順、散布料金等の説明後、業者が散布作業を実演した。</p>			
結果と今後	<p>○飛行時間は3分/10a程度で、参加者からは「これでやれるのなら楽だ」「防除にも利用するのなら採算がとれそう」と期待感が示された。</p> <p>○同法人は、肥料コストの削減を目指して緑肥栽培にも取り組んでおり、当班では今回のドローン施肥と合わせた飼料用米の低コスト省力栽培による経営改善を支援するとともに、他農家へも本栽培技術を普及していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">左：専用肥料を搭載して実証ほ場まで移動するドローン 右：ほ場での肥料の散布状況を確認する飼料米栽培農家</p>				



標 題	「南予の媛小春」魅力アップ協議会設立		機関名	南予地方局産地戦略推進室 八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年8月1日	場所	みかん研究所	
指導対象	「媛小春」栽培者、販売事業者他	連携機関	JA えひめ南、八幡浜市、みかん研究所	
普及指導内容	<p>○県オリジナルかんきつ「媛小春」の振興に向け、南予管内の栽培農家及び販売事業者等が参画する「南予の媛小春」魅力アップ協議会を設立した。</p> <p>○当日は、南予での栽培状況や課題について情報提供・意見交換を行った後、みかん研究所内にある同品種の台木の違いによる生育状態を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○同協議会は、(株)ミヤモトオレンジガーデンの宮本泰邦氏を会長に、栽培者・販売事業者・JA・市など計13者の参画でスタートし、随時、新規栽培者や関係機関の参画を促していく。</p> <p>○今後、新規栽培者向けの講習会を開催するほか、販売時期には、共通ロゴやキャッチコピーによる統一キャンペーン等の認知度向上活動を予定している。</p>			
				
			<p>左：南予での栽培状況・課題を説明</p> <p>右：台木の違いによる生育差を確認</p>	

標 題	経営安定に向け重点指導対象者を訪問指導		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年8月15日～	場所	新規就農者園地（八幡浜市）	
指導対象	新規就農者（4人）	連携機関	八幡浜市、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○農業次世代人材投資事業に係る就農状況の確認に併せて、局予算「南予儲かる農業人材育成事業」により、新規就農者の経営の早期安定を図るため、重点指導を実施した。</p> <p>○新規就農者の園地巡回では、営農や経営状況を聞き取るとともに、当室が作成した年収1千万円の経営モデルを提示し経営改善を促した。</p>			
結果と今後	<p>○新規就農者は、経営モデルを参考に、マルドリ技術や「紅プリンセス」の導入に前向きであったことから、今後もこまめに指導を継続していく。</p> <p>○今年度は経営モデルを用いた巡回指導に加え、昨年度に実施した「温州みかんのマルドリ導入によるスマート技術」の実証結果を9月21日に開催される「八西農業者フォーラム2023」で報告し、儲かる農業の実現を進めていく。</p>			
<p>【年収1千万円の経営モデル】 新品種・新技術を取り入れた八西地区の年収1千万円の経営モデル。温州みかん+マルドリ、温州みかん+中晩柑、中晩柑の3類型を作成。</p>				
			<p>経営モデルを用いた巡回指導</p>	



標 題	女性起業農業者の経営力向上に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 〃 大洲・西予農業指導班
年月日	令和5年8月24日	場所	八幡浜支局	
指導対象	八幡浜支局管内女性起業農業者(14人)	連携機関	農産園芸課、八幡浜税務署	
普及指導内容	<p>○女性起業農業者の経営知識習得と活動展開を図るため、アグリビジネス研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、当室が6次産業化の取組において押さえるべきポイントや情報収集の必要性などを指導した。</p> <p>○また、女性起業家における「インボイス制度」の概要や登録方法について、八幡浜税務署統括国税調査官が講習した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「自分の加工品や起業活動を振り返り、経営理念を見直すきっかけとなった」「インボイス制度について、免税事業者であるため、登録の是非について再度検討したい」といった声が聞かれた。</p> <p>○今後、女性起業農業者に対し、経営理念に沿った活動が展開できるよう支援していく。</p>			
				<p>左：6次産業化について講義</p> <p>右：インボイス制度の概要説明</p>

標 題	ニホンジカ被害に備え関係機関と意識統一		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年8月18日	場所	鬼北農業指導班実証ほ場 松野町現地ほ場・松野町役場	
指導対象	八幡浜市職員(4人)、伊方町職員(2人)、JAにしうわ職員	連携機関	南予地方局鬼北農業指導班、松野町	
普及指導内容	<p>○管内では、イノシシによるかんきつ被害が深刻な中、新たにニホンジカの出没頻度が年々増加しており、今後の農作物や森林の被害発生が懸念されている。</p> <p>○当室は、ニホンジカ被害について、関係機関が速やかに適切な対応をするため鬼北町及び松野町の対策事例を学ぶ視察研修会を開催した。</p>			
結果と今後	<p>○参集者は、様々なタイプの防護柵の中で最も有効な対策は、2mの高さがあるワイヤーメッシュ柵の適切な設置であることを学び、「既存のイノシシ対策用の高さ1mのワイヤーメッシュ柵を応用した対策を考えたい」「被害防止の考え方はイノシシ等と変わらないことがわかった」との反応があった。</p> <p>○当室は、引き続きニホンジカの捕獲・目撃情報を収集するとともに、視察内容をJA営農指導員等に周知し、適切な初動対応に向けた理解促進や被害防止への機運醸成に取り組む。</p>			
				<p>左：ニホンジカ対策の事例収集</p> <p>右：対策に向けた取組を議論</p>

標 題	研修生等がいちご IPM 技術を習得		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年8月3日	場所	県大洲庁舎	
指導対象	新規就農研修生及び新規栽培者、若手普及指導員（7人）	連携機関	JA 愛媛たいき、(株)Pi-Nokyo たいき、病害虫防除所	
普及指導内容	<p>○当班が先導する大洲いちご IPM（総合的病害虫管理）プロジェクトチームの第2回検討会を開催し、病害虫に対する様々な知識が不足する(株)Pi-Nokyo たいき研修生等に対して、病害診断の手法や害虫天敵の生態等について指導した。</p> <p>○難防除病害とされる炭疽病は的確な診断が必要なため、外観からの病斑の特徴を判断するポイントや、菌体を採取して検鏡する確定診断の手法を説明した。</p> <p>○また、生物的防除を推進するため、近年発生が多いハダニやアザミウマ等を捕食寄生する天敵の生態や放飼ポイント等も説明した。</p>			
結果と今後	<p>○研修生等は、サンプル調整や顕微鏡による観察を実習して病害診断の手法を学んだほか、天敵の生態や防除技術に関する知識を習得できた。</p> <p>○今後は、プロジェクトチーム内の連携を強化し、(株)Pi-Nokyo たいきに天敵を導入した実証ほを設置するとともに、現地講習会を開催し技術の高度化支援に取り組む。</p>			
				<p>顕微鏡で炭疽病を確認</p>

標 題	高校生が水稻栽培への理解を深める		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年8月21日	場所	県立宇和高校農場	
指導対象	県立宇和高校生徒（13人）	連携機関	西予市水稻防除協議会	
普及指導内容	<p>○将来的な地域農業を担う人材育成を推進するため、宇和高校に設置している水稻肥料試験ほ場で、水稻収穫期調査に関する研修会を開催した。</p> <p>○収穫期調査方法について指導した後、生徒は稈長、穂長、穂数の3項目の調査と坪刈りを行い、施肥方法の違う水稻の生育状況・収量等を数値で客観的に把握した。</p>			
結果と今後	<p>○次代の担い手や指導者として期待される高校生が、地域の主要品目である「宇和米」に対する理解を深める機会となった。</p> <p>○12月上旬には、今回収穫したサンプルを用いて収量・品質調査に関する研修を計画しており、本活動を通じて、農業の現状や魅力を生徒に伝え、地域農業を担う人材の育成に努める。</p>			
				<p>左：調査方法を指導 右：収穫期調査を体験する生徒</p>

標 題	耕畜連携に向けた連絡会議を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年8月29日	場所	JA ひがしうわ野村畜産センター	
指導対象	コントラクター組織、耕種農家等(20人)	連携機関	JA ひがしうわ、西予市、南予家畜保健衛生所	
普及指導内容	<p>○肥料や飼料を始めとする資材価格の高騰が続く中、第2回 JA ひがしうわ耕畜連携連絡協議会の第2回会議が開催され、当班は構築連携に向けた取組みについて指導した。</p> <p>○協議会では畜産農家が必要とする WCS 用稲の確保に向け、生産体制の確立と増産への支援を行っており、当班は、WCS 用稲の安定生産に向けた実証ほの設置、栽培技術の指導等を行い、増産に向けた取組みを支援している。</p>			
結果と今後	<p>○その結果、管内の WCS 用稲は、123ha(前年度対比 120%)の作付が計画され、畜産農家の要望に対し 87%が確保される見込みとなった。</p> <p>○今後も、WCS 用稲の確保に向け支援を行うとともに、補助事業の活用支援等により、堆肥舎や JA 堆肥センターで製造された堆肥の耕種農家での利用拡大を進めていく。</p>			
				
		<p>左：WCS 用稲の収穫</p> <p>右：耕畜連携連絡会議で協議</p>		

標 題	水稻採種ほ場の事前審査		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年8月4日、17日、25日	場所	採種ほ場 233 筆 (延べ 466 筆)	
指導対象	採種ほ生産者 (38 人)	連携機関	JA (えひめ中央・松山市)、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○本県では、松前町と伊予市において県オリジナル品種の「ひめの凜」をはじめとする 6 品種の採種ほ場が設置されており、当グループは水稻種子の安定供給に向け、関係機関と連携して採種ほ審査を実施している。</p> <p>○現在、審査体制の見直しにより、効率的な審査を検討しており、精度向上と業務効率化を図るために Z-GIS を利用したほ場マップに、雑草など管理状況のデータを一覧及び個票化したものを紐づけし、関係機関等へ周知できるシステム構築などに取り組んでいる。</p> <p>○また、現地ほ場で問題となっている馬鹿苗病の周辺ほ場等の発生状況をマッピングするとともに、品種ごとの管理状況を取りまとめて審査及び技術指導に活用している。</p>			
結果と今後	<p>○事前審査の結果は、担当 JA を通じ生産者へ周知し管理の指導を実施中。</p> <p>○9 月には、2 期審査の事前審査を予定しており、令和 5 年産の優良種子生産・確保につなげる。</p>			
				
Z-GIS のほ場マップ		生産者個票 (様式)		ほ場審査の状況

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543